

医療評価 総合討議

座長： DISCERN というのは非常に洗練された方法論だと思うのですが、医療消費者自らがEBMの手法に則って評価するというのは、現実には日本でかなり難しいのではないかなという印象を持ったのですが。

大矢： これは、実はかなりたくさんのわれわれの患者様達に配って、ウェブサイトをチェックしていただいたのです。実はそのデータを集めているのですが、最初は原著者の論文にとらわれていて、 をチェックすることばかり考えていました。大量に情報を集めたものの、全然一致率が高くないので、これはダメかなと思っていたのです。

だんだん、この発表が近づくにつれて焦りを感じたのですが、わかったことは、インテリのお母様はとても喜ぶということです。「ああ、そうかこうかやってチェックすればいいのか」「よくわかった」と言って、非常に喜ばれた。ところが、こう言っでは失礼ですが、標準的なレベルの方にお渡ししたところ、「こんな難しいのはできない」「とてもこんな大変だ」というようなことをおっしゃった。

ですから、このツールをどのように利用するかということについては、インテリのお母様とかそういう人たちを含むユーザーのある種の患者団体の方々が、代わりに数名でこのツールを使って採点して、ランキングを発表したらよいのではないかなと思うのです。

ランキング表が出れば、自分で採点するのが大変な方はそれをご覧になれば、これとこれは信頼できるかなと判断するのではないかと思います。それに、ランキングを作っていけば、ウェブサイトを作る側の人間もランキングの高いものを作ろうとしますので、最初からアトピーグッズを売って儲けようというような意図のものは、だんだん姿を消すのではないかと思います。